

睡眠時無呼吸の CPAP 療法を遵守する患者では心臓血管リスク低減

睡眠時無呼吸症候群では、睡眠時に血液内の酸素が欠乏しやすいために、心臓や脳、血管に負担がかかりやすく脳血管疾患(脳卒中・心筋梗塞など)のリスクが高まることが分かっている。中等症から重症の睡眠時無呼吸症候群の患者に適用される持続陽圧呼吸療法(以下、CPAP)は、これを行うことで睡眠中に酸素が十分に取り込めるようになり、二次的に心臓血管イベントのリスクが軽減する可能性があることが議論されている。本研究では、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する CPAP 療法が心臓血管イベントのリスクに及ぼす影響について検討するため、ランダム化比較試験を対象にメタ解析を行った。

心臓血管病と閉塞性睡眠時無呼吸症候群の両方を有する成人を対象に CPAP 治療を行い、心臓血管転帰および死亡を評価した論文について医学関連データベースを用い検索した。2023 年 6 月 22 日までに発表されたものを対象としたところ、3 研究が抽出された。3 研究の参加者 4,186 例(男性 82.1%、平均年齢 61.2 歳、平均 BMI28.9、平均無呼吸低呼吸指数 31.2/時)について、メタ解析を行い心臓血管イベントの再発リスクに及ぼす CPAP 療法の影響を評価した。また、CPAP 療法の良好な遵守(毎晩 4 時間以上)の効果についても検討した。対象者のうち、高血圧のある者は 71%、CPAP 療法を受けていたのは 50.1%(平均遵守 3.1 時間/日)、49.9%は CPAP 療法を受けていなかった(通常治療)。平均追跡期間は 3.25 年であった。心臓血管イベントは 691 例(16.5%)で発生し、CPAP 療法を受けた群と受けなかった群で差はみられなかった(ハザード比 1.01)。一方、CPAP 療法の遵守が不良な者(毎晩 4 時間未満)と比べ、遵守が良好な者(毎晩 4 時間以上)では心臓血管イベントのリスクが有意に低下した(ハザード比 0.69)。

したがって、閉塞性睡眠時無呼吸症候群の患者における心臓血管リスクの二次予防については、CPAP 療法の遵守が良好であればリスクが低減することが示された。

出典: Journal of American Medical Association. 2023 Oct 3; 330(13): 1255-1265.